

I. 令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について【要約】

	主なご意見	県の考え方
基本目標	・ 高校は「義務教育と社会をつなぐ場」であり、時代のニーズに対応できる人材や学んだことを実践する行動力を育むことが必要。 ・ 予測困難な時代と言われているが、課題発見力、実行力、主体性があれば、どのような時代になっても生きていける。	・ 現在の基本目標を根幹に据え、その実現に向け今後、具体的な内容を検討
教育内容(学科)	・ 普通系学科の 6 つの教育内容が学校の特色化・魅力化につながるよう具体化していく必要がある。 ・ 富山県の産業を支える人材の育成に向けて、職業系専門学科について検討すべき。 ・ 生徒の選択肢が広がることはよいが、そこで何ができるかが具体的になるとよい。 ・ 漫画、観光、防災など特色ある教育を提供すべき。 ・ 部活動を理由とした県外への流出が増えており、部活動の強化が必要。	・ 今後、「教育内容」について具体的な議論を深め、必要な教育プログラムを検討
学校規模	・ 大規模校にも小規模校にも、それぞれメリットとデメリットがある。デメリットを補う方法を検討し、規模に関わらず生徒が学びたいと思う学校にすることが重要。 ・ 大規模校では何ができるのかをイメージしやすいようにすべき。 ・ 生徒数が減少する中、県立として 400 人以上の大規模校を設置する必要があるのか。 ・ 学校規模ごとの募集定員に空白があるが、この空白部分の規模の学校があってもよいのではないか。	【基本方針への反映】 ・ 学校規模ごとの定員の考え方を変更する案を提示
組合せと配置数の目安 教育内容と学校規模の	・ 大規模校を 2～3 校も設置する必要はなく、むしろ学校数を増やすべき。 ・ 単独学科のみの学校と複数学科が併設される学校では違うので、それを整理して検討が必要。 ・ 令和 20 年度に 20 校という案は極端。大・中・小規模校の学校をバランスよく配置してほしい。 ・ それぞれの規模の中で、何をするかが大切で、その規模は柔軟であるべき。まずは、各学科構成の組合せでどのような生徒を育てるかを具体的に検討した上で、学校の規模が決まるもの。 ・ アンケートでは、学習内容を選択できる仕組みがある学校が望まれていることを踏まえるべき。 ・ 入学後のミスマッチを防ぐためにも、1 年次は幅広く学び、2 年次から選択する仕組みがあるとよい。 ・ 通学負担に対する支援も合わせて検討してほしい。	【基本方針への反映】 ・ 学校規模ごとの定員の考え方の変更に伴い、①大規模校の設置目安数、②令和 20 年度の配置目安数、③学科構成パターンを修正する案を提示

Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について【要約】

配置の姿	・ゴールを決めてそこに向かう手法はよい。進めていく途中でも検証しながら進めるべき。 ・大規模校の開設より、地域の中規模校、小規模校を残すべき。公共交通機関の状況も踏まえ、大・中・小規模の学校をバランスよく配置してほしい。 ・未来の子育て世代に県立高校がどのように変わっていくのかということを理解してもらうことが大切。 ・ゼロベースで、全ての学校を移行準備校としたことはよいが、移行準備校の教育の質の向上も大切。 ・県立高校の再編が進めば、通学距離も長くなる。通学負担に対する支援の検討も必要ではないか。	【基本方針への反映】 ・令和 20 年度の配置目安数を変更する案を提示 ・「移行準備校」の学習環境にも十分留意しながら、県立高校の再構築を推進
------	---	---

Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針について【要約】

新時代 H S の開設等	・新時代 H S の最終形の 20 校のイメージを早めに示すべき。また、各期でどんな学校がつけられるのかも示されるとよい。 ・中学生に対し、早めに第 1 期校の情報提供をする必要がある。 ・私立高校や県外に進学する生徒が増加しており、県内の県立高校を選んでもらえるよう魅力ある高校づくりが必要。	・今後、具体的な検討を進め、県立高校の将来像を明確化 ・構想の着実な推進と、情報発信の強化
学科・コースの改編等	・子どもが志望校を決めることに不安を覚えるのでスピード感を持って、令和 15 年度など早い段階で動けるとよい。 ・学科改編など今できることは取り組んだ方がよい。	・現在学ぶ子どもたちのために必要な学科改編等を検討
様々なタイプの学校・学科	・中高一貫教育校は、探究的な学びの他、科学技術やグローバル教育など 6 年間を通した教育が実践されるよう、市町村教育委員会等とも協議しながら検討すべき。 ・国際バカロレア認定校についてもさらなる検討が必要。 ・外国籍生徒の割合が高くなっているため、外国人特別枠などの仕組みが必要。 ・県外に出ていくばかりでなく、全国から富山に来てもらえるよう全国募集の検討が必要。	・新たな学校づくりと並行して検討
施設・設備	・計画が遅れ、校舎が使えないなど教育に支障が出ないように着実に進めるべき。 ・大規模校が新築されるとよい。きれいな校舎は魅力的で、食堂などがあることも魅力のひとつ。	・必要となる施設設備の整備を計画的に推進

活力組織ある学校づくり・	・ 外部と連携した探究活動を充実させるため、外部人材を有効に活用すべき。 ・ 教育の質の向上には、教員のウェルビーイングの向上が必要。 ・ 教員が新しい学校をつくっていくという姿勢が必要。 ・ 教員を段階的な再編の動きに対応できるように育成すべき。チャレンジするような機運を高めることで、ウェルビーイングの向上につなげるべき。	・ 学校現場の教員の意見を聴取 ・ 活力ある学校・組織づくりを検討
その他	・ 教育内容だけでなく、入試制度についても変えていく必要がある。	【基本方針への反映】 ・ 入試制度の見直しに関する検討項目を追加する案を提示
	・ 生徒一人ひとりに対応しやすい少人数学級を進めてほしい。	・ 引き続き、国の動向を注視